

国語 第1学年 こんなことしたよ 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を私の学級に合わせて直してください。初めに、学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や配慮、使える時間と本時の位置、ICTと紙の道具の条件を一項目ずつ質問し、答えを待ってから次の質問へ進んでください。条件がそろったら、経験を文にする際の表記という目標を保ち、経験の文章と修正記録で学びを確認できるように全体を直してください。教科書の本文や台詞、挿絵、固有の問題は転載しないでください。配当時数は出典に従い、活動の配分を提案する場合は提案と明示してください。児童の姿を実測済みの事実として創作しないでください。三重の指導案の見出しの順と評価の三観点を保ち、内部IDなどを先生向けの文章へ出さないでください。変更箇所と根拠を示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「こんなことしたよ」 教材名「こんなことしたよ」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使う。思考・判断・表現では、したことを絵と文で書き、助詞や小さい文字を読み直して直す。交流や試行の前後を比べ、経験の文章と修正記録を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)ウ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、したことを絵と文で書き、助詞や小さい文字を読み直して直している。(B(1)ウ・B(2)ア)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、経験を文にする際の表記を中心に学ぶ。したことを絵と文で書き、助詞や小さい文字を読み直して直す活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の

〔知識及び技能〕(1)ウとB(1)ウ・B(2)アに関係する学習である。成果は、経験の文章と修正記録に示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

予想される難しさは、話した言葉を音のまま書いて終えることである。本人が声に出して読み、意味を保ったまま表記を確かめる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全5時間）

第1次 第1時：○経験を文にする際の表記に関係する既習を振り返る。○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す経験の文章と修正記録の内容を確認する。 評価：既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。

第2次 第2～4時（本時は4時）：○したことを絵と文で書き、助詞や小さい文字を読み直して直す。○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。○この文を読む人にしたことが伝わるかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。 評価：知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）

第3次 第5時：○経験の文章と修正記録を仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えるような考え方を記す。 評価：思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）

6 本時の指導 (4/5)

(1) 本時の目標

したことを絵と文で書き、助詞や小さい文字を読み直して直すことができる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。

○「この文を読む人にしたことが伝わるか」

【めあて】経験を文にする際の表記について、自分の考えと理由を表そう。

予想される児童の反応：・小さいつを入れるとしたことが伝わった。

・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。

指導上の留意点：本時に使う具体例を見える所へ置く。話した言葉を音のまま書いて終える姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。

【展開】

学習活動：2 したことを絵と文で書き、助詞や小さい文字を読み直して直す。

3 書いたものを読み返し、「この文を読む人にしたことが伝わるか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確かめる。

4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。

予想される児童の反応：・小さいつを入れるとしたことが伝わった。

・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。

指導上の留意点：本人が声に出して読み、意味を保ったまま表記を確かめる。知識・技能では、本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。

評価：①したことを絵と文で書き、助詞や小さい文字を読み直して直している。(B(1)ウ・B(2)ア)(初稿・見直した稿・修正理由)

【まとめ】

学習活動：5 経験の文章と修正記録を確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。

【まとめ】書いたものを読み手の立場で確かめ、目的に合う言葉や構成へ直すと、伝えたい内容が明確になる。

6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。

予想される児童の反応：・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。

指導上の留意点：結論が教師の例と同じかだけで判定しない。この文を読む人にしたことが伝わるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。

評価：知①(経験の文章と修正記録と実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、したことを絵と文で書き、助詞や小さい文字を読み直して直している姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。話した言葉を音のまま書いて終える場合は、本人が声に出して読み、意味を保ったまま表記を確かめる。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画(縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には経験を文にする際の表記を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に経験の文章と修正記録で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

